

「組織罰の実現を」 遺族ら大阪で勉強会 ／兵庫

毎日新聞 2016 年 6 月 20 日 地方版



笹子トンネル事故をめぐる問題について話す松本さん（右）＝大阪府高槻市で、田辺佑介撮影

重大事故を起こした企業への処罰を求めるＪＲ脱線事故の遺族らでつくる「組織罰を実現する会」の勉強会が１８日、大阪府高槻市であった。２０１２年１２月に山梨県で起きた中央自動車道・笹子トンネル事故で娘を亡くした松本邦夫さん＝芦屋市＝が、事故の背景や道路を管理する中日本高速道路との裁判を通じて感じた課題について話した。

笹子トンネル内の天井板が崩落し、松本さんの長女の玲さん（当時２８歳）ら男女９人が死亡した。松本さんら一部の遺族は、当時の中日本高速の役員らを業務上過失致死容疑で告訴した。民事訴訟でも事故３カ月前の点検が双眼鏡での目視にとどまり、必要な検査を怠ったことが事故につながったなどと主張。１審で会社の責任は認められたが、役員個人の責任は認められていない。

この日、松本さんは「個人の刑事責任を明らかにすることが難しい事故こそ、組織の責任が問われるべきだ」と訴えた。脱線事故遺族の大森重美さんは「歴代社長らの刑事責任が問われていない脱線事故と同じ問題を抱えている。事故を防ぐため、同じことを繰り返してはいけない」と話した。【田辺佑介】

〔阪神版〕